

News Letter

日頃は慶應義塾維持会の活動にご支援を賜りまして、心より御礼申し上げます。

慶應義塾維持会は、慶應義塾の維持運営のために寄付を行う者の会員組織として、明治34年の福澤諭吉先生逝去の折に設立された伝統ある組織です。現在、維持会員数は約44,100名、会員皆様のご厚志により維持会基金は約28億円に上っております。2007年度にはこの基金の運用益を充てることで「慶應義塾維持会奨学金」を新設し義塾の奨学制度を一層充実させました。その他、義塾の教育・研究・社会貢献の活動に幅広く寄与しています。

慶應義塾がさらなる飛躍をするために変らぬご支援を賜りたくお願い申し上げます。また維持会を通じて義塾との絆を一層深めていただければ幸いです。

2010年9月
No.3

2009年度の維持会事業をご報告いたします。

維持会基金の運用益により維持会事業費全体で4,500万円を助成しました。

1) 奨学支援事業(維持会奨学金)

維持会奨学金として30都道府県・54名の塾生に総額3,000万円を支給いたしました。(詳細は中面をご覧ください)

2) 慶應義塾大学博士課程学生研究支援プログラムへの支援

博士課程学生研究支援プログラムは、重要な研究に挑戦している博士課程の学生の研究費を補助する目的で2008年度より開始されました。維持会より973万円を助成いたしました。



3) キャンパス施設整備への支援

三田キャンパス南館テラスに屋外テーブルとイスを新設しました。また福澤記念園・第一校舎前等にも増設し、塾生、近隣の方々の憩いの場として整備を進めました。さらに福澤記念園・幻の門周りの照明を増設し、構内の安全性を高めました。設置したテーブルとイスには維持会からの支援であることを示すシールを貼付しています。(327万円を助成)



4) アントレプレナー支援資金への支援

アントレプレナー支援資金は義塾の学術的研究活動によって生み出された研究成果の社会的活用を促進を目的に、知的財産権の実用化に際して設立されるベンチャー企業1社に対して最大100万円の出資を行います。2009年度は以下の2社の設立に対して総額200万円を助成いたしました。

- 株式会社SIM-Drive <http://www.sim-drive.com/>
環境にやさしい電気自動車の開発と技術の普及を通じ、未来の世界の創造に貢献します。(環境情報学部清水浩教授の研究による)
- AISSY株式会社 <http://aiissy.co.jp/>
味覚センサーの開発・販売、味覚のコンサルティング等、化学、物理、生物、薬学などの領域を融合させて分析ツールを研究開発しています。(理工学部鈴木孝治教授の研究による)



維持会 Web サイトをリニューアルしました。(<http://www.kikin.keio.ac.jp/ijikai/>)

2009年秋、維持会 Web サイトを全面リニューアルいたしました。維持会の歴史から、維持会の事業、維持会の状況、維持会奨学生のメッセージと、維持会の活動を幅広く紹介しています。ぜひご覧ください。

慶應義塾維持会奨学金

近年、経済的理由により学業の継続が困難になる学生が全国で増えており、慶應義塾でも日本学生支援機構奨学金の受給を含め、のべ約1万人の塾生が奨学金を受けています。こうした現状を踏まえて、義塾の奨学制度の一層の充実と将来良識ある社会人として活躍できる人材を育成することを目的に、2007年度に維持会事業の中核として「慶應義塾維持会奨学金」を新設しました。この奨学金は、経済的理由により修学が困難な塾生に勉学に専念できる環境を整え、また全国の優秀な学生に義塾で学んでもらうために地方出身者を優先採用としています。運用3年目をむかえた2009年度は維持会奨学金がより有効に活用されるよう対象・金額等の見直しを行いました。

- 対象学年を3年生以上(6年生の学部については5年生以上)から1年生以上に拡大しました。
 - 地方出身(東京・神奈川・千葉・埼玉以外)の学生を優先とするが首都圏の塾生も応募可としました。
 - 学部の授業料・学生数とのバランスにより支給額・人数を調整しました。
- 文・経・法・商・総合政策・環境情報・看護医療学部から44名・各50万円
医・理工・薬学部 から10名・各80万円

*慶應義塾独自の奨学金は給付型で返済の必要はありません。

今年度(2010度)の維持会奨学生から感謝の言葉が寄せられています

今年度採用者54名のうち、7名のメッセージ(一部抜粋)をご紹介します。維持会員おひとりおひとりの温かいご厚志に対する気持ちを受け取っていただければ幸いです。

※維持会 Web サイト(<http://www.kikin.keio.ac.jp/ijikai/>)では、奨学生全てのメッセージを掲載しています。ぜひご覧ください。

この度は私を慶應義塾維持会奨学生として採用していただき本当にありがとうございます。私が高校二年生の時に父が目を怪我し、厳しい家計状況が続いていました。そのため、今回このような高額な奨学金を頂いた喜びは口では言い表せません。両親に報告したところ、涙を流しながら喜んでいました。採用の通知を頂いた時の気持ちを忘れることは一生ないと感じております。奨学金は学費と大学院に進学するときのための費用として使用させていただきたいと考えております。

現在私は理工学部所属の三年生です。東京にある学生寮に住み、今は日々勉学に励むことが楽しくて仕方がないと感じております。しかし、私は両親には出来る限り迷惑をかけたくないと考えていたので、東京での生活を成立させるためにはアルバイトをしなければならず、本当の意味で勉学に専念することが出来ていませんでした。今回奨学金を頂いたおかげで、アルバイトを減らし、勉学の道に突き進むことができます。

私は今管理工学科で経営学やプログラミング言語などを学んでいます。昨今では日本の企業は世界と比べて競争力があまりないと言われておりますが、将来はここで学んでいる学問を活かして、世界と互角以上に渡り合える企業の育成などに携っていきなりたいと思っています。そして、このような状況にあり、改めて学生生活を続けられることのありがたさを感じております。他の大学ではこのように多額の支援を頂くことは出来なかったのではないかと感じております。慶應義塾大学に入学して本当に良かったという思いがさらに強くなっています。

奨学金を有効に使い、慶應義塾のさらなる発展に、社会の発展に貢献できる人間になれるように一層の努力をしていきたい所存です。応募した多くの塾生の中から採用していただいたことを肝に銘じ、その名に恥じない生活を送ることをお誓いいたします。慶應義塾維持会の皆さま、今回は本当にありがとうございました。

●理工学部3年(群馬県)



この度は「慶應義塾維持会奨学金」の奨学生として採用して頂き、誠に有難うございました。昨今の経済不況の煽りを受け父の収入が減っています中、薬学部の高額な授業料及び専門書の購入等により益々家計が逼迫しているような状況でありましたので、採用決定の通知を受けまして両親も大変喜んでおりました。経済的負担が軽減でき、慶應義塾維持会の皆様にはただただ感謝するばかりです。頂きました奨学金は、全額学費に充て、大切に使用させていただきます。

「将来必ずや、人のため社会のために、身も心も尽くす薬剤師になりたい」という入学当初からの志を胸に抱きながら勉学に励み、有意義な学生生活を送って参りました。四年生となり、益々専門的及び臨床的内容を取り扱った講義が増え、薬学という学問の重要性を身にしみ感じております。また薬学共用試験といって、五年次の長期実務実習に出るために通らなければならない大切な試験も控えておりますので、益々身の引き締まる思いです。

今後より一層真摯な態度で勉学に進んでいくとともに、慶應義塾、そして慶應義塾維持会の奨学生の一員として、将来を担う医療人となるべく、義塾での経験を通し日々自己研鑽に努めて参りたい所存です。

末筆ではございますが、重ねて御礼を申し上げますとともに、皆様の御健勝と御多幸を心よりお祈り申し上げます。

●薬学部4年(東京都)

私が憧れの慶應義塾に入学して早1年が経ちました。慶應義塾での学生生活は様々な出会いや発見、驚きの連続でした。授業を受け持つくださる教授方、研究会活動や課外活動でお世話になった先輩、高い目的意識を持った同級生など、私は慶應義塾で自らの狭い世界観を変えるチャンスに恵まれました。今後も、慶應義塾という最高の場所で多くの刺激を受け多くの知識を身につけたい、そしてその成果を社会に還元し人の役に立ちたい、と私は考えています。

今回奨学生採用の通知をいただいた事で、私は慶應義塾維持会奨学生という自覚を持ち、これまで以上に勉学や研究に励み成果を挙げていきたい所存です。

●環境情報学部2年(高知県)

2010年度は380名を超える応募があり、厳正な審査を経て、35都道府県・54名の塾生に総額3,000万円を支給することが決定しました。これまでに42都道府県・213名が採用され勉学・課外活動に充実した学生生活を送っています。維持会奨学生には、維持会へのメッセージを必須としており、今年7月20日に開催された維持会常任委員会懇話会では、維持会員の代表である維持会常任委員の方々へ感謝の気持ちと今後の進路・抱負を語っていただきました。福澤先生の「社中協力」の精神を体現した維持会奨学金の拡充のために皆様のご協力をお願いいたします。



7月20日 維持会常任委員会懇話会の様子

私は中国文学を専攻しておりますが、私個人としては中国語(と同時に英語)の語学力を伸ばし、さらに中国という国、さらには華僑圏についての見識を深めて、将来社会で国際交流の面で役に立つための能力を身につけていきたいと考えております。語学力を伸ばし、語学学習のための教材や見識を深めるための書物を購入する費用としても奨学金を使わせていただきます。同時に、いずれ公務員試験を受けることも考えております。

私の故郷・長崎県は現在景気が低迷しており、人材が次々と他の県へと流出しております。私はこの慶應義塾大学で大きな視野、すなわち狭い世界にとらわれない、より普遍的な見方ができるように見識を深め、ひいては長崎県のために尽くすことのできる人材になりたいと思っております。そのように社会に尽くすことが、この慶應義塾大学への恩返しにもなると信じております。

●文学部2年(長崎県)

社会の先導者として日本はおろか世界のあらゆる分野で御活躍なさっている慶應義塾維持会の諸先輩方の御支援を賜ることができ、身が引き締まる思いです。皆様の築きあげてこられた慶應義塾の素晴らしい伝統の一つである「社中協力」の精神を私もしっかりと承継していきたく思います。

私は、弁護士となって、司法過疎の故郷において法務サービスが十分に行き渡っていないがために、泣き寝入りを経験してきた方々の役に立つという夢があります。この夢の実現のため、現在法律学科に所属し、法科大学院進学にむけて日々研鑽を重ねております。もっとも、法科大学院の学費は正直なところ、非常に高額であり、上述の志を掲げながらも経済的理由から一時は断念しかけました。今回賜りました奨学金は両親の経済的負担を少しでも軽減するため、全額法科大学院の学費としてありがたく使わせていただきます。そして、弁護士となった際には、皆様からの御支援を常に念頭に置いて、社会正義の実現を通して、慶應義塾出身の法曹として社会貢献していく所存です。

●法学部4年(山梨県)

愛塾心、社中協力精神を持ち続けておられる先輩方のご支援を承ることになり、感謝の念が絶えません。医療を多角的に追究したいという思いを胸に、歴史と伝統のある慶應義塾大学に入学し、学生生活も残すところ数カ月となります。独立自尊の精神のもと、三年間で数え切れないほど多くのことを学ばせていただきました。

将来、日本の医療を支える自律性と幅広い視野をもった看護師になるためには、これからも知識と精神を磨いていかなければなりません。そのためにも、質の高い参考書の購入はどうしても避けることができず、費用がかさんでまいります。

今回いただいた奨学金は、自分のキャリアアップのための書籍の購入資金に、大切に使用させていただこうと考えております。

今後より一層勉学に励み、慶應義塾大学のさらなる発展に貢献させていただきたいです。そして将来は、支援を受ける側ではなく、愛塾心に富んだ学生を支援する側となって恩返しをさせていただきたいと思っております。

●看護医療学部4年(大阪府)



本年度より病棟内での臨床実習が始まりました。実際に医師の働く臨床現場で勉強させて頂くということで、日々教科書では学ぶことの出来ないような、貴重な学習をさせて頂いております。実際に先輩方の働く姿を目の当たりにし、己の未熟さを思い知らされる毎日ではありますが、少しでも早く一人前になれるよう、謙虚な姿勢をもって先輩方から出来るだけ多くの事を吸収すると共に、自主的な学習にも積極的に取り組んでいきたいと思っております。その他、将来国際的に活躍できるような医師になるべく、英語の学習にも力を入れていく所存です。

なお、慶應義塾で学ぶということは、将来的にも塾生という肩書きを持って物事を行うということです。私はまだまだ未熟者ですが、まずは慶應義塾の名に恥じぬような人間となるべく努力致します。また、決して世俗的な栄誉を求めめるわけではありませんが、いずれは慶應義塾の名を高めることが出来るような医師へと成長したいと強く感じています。

●医学部5年(兵庫県)

2009年度 慶應義塾維持会決算

(単位：円)

収入の部		
寄 付 金		176,816,017
維持会基金運用収入		79,198,395
(1) 収入の部合計		256,014,412
支出の部		
維持会事業費	奨学支援事業	30,000,000
	その他の支援事業	15,000,000
管 理 経 費	会員用三田評論経費	15,484,095
	事務経費 (維持会勧誘にともなう趣意書等制作費、DM発送郵便料等)	15,320,990
(2) 支出の部合計		75,805,085
収支差額(1)-(2) ※金額を維持会基金に組み入れ		180,209,327
(3) 年度末維持会基金残高		2,820,155,846

収入の部

1 新規入会 609 件、継続 6,897 件、計 7,506 件の寄付金(維持会員からの醸金)と維持会基金運用収入により、256,014,412 円となりました。

支出の部

- ①奨学支援事業 30,000,000 円
「慶應義塾維持会奨学金」として充当。
- ②その他の支援事業 15,000,000 円
アントレプレナー支援資金 2,000,000 円、
慶應義塾大学博士課程学生研究支援プログラム
9,732,400 円
三田キャンパスの施設整備 3,267,600 円
- ③管理経費 30,805,085 円

慶應義塾維持会基金残高

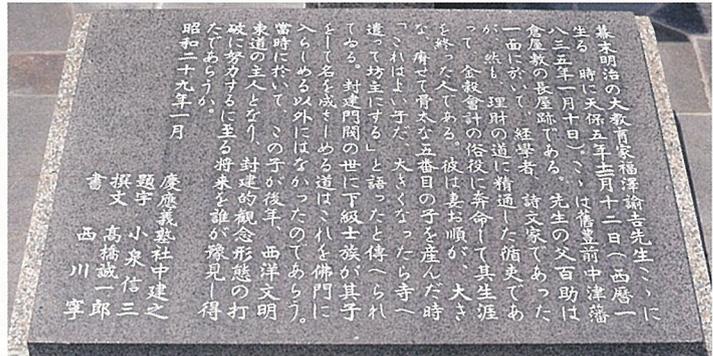
3 収支差額 180,209,327 円を維持会基金に組入れた結果、2,820,155,846 円となりました。昨今の経済状況において運用益が減少する場合でも、維持会の事業が遂行できるよう財務基盤を強化します。

福澤諭吉先生 生誕175年。

福澤諭吉先生は、天保5年12月12日(西暦1835年1月10日)に大阪の中津藩蔵屋敷で生まれました。現在は、「福澤諭吉誕生地」と小泉信三元塾長の筆で刻まれた記念碑が、福澤先生が生まれたときの様子とその時代背景を「幕末明治の大教育家福澤諭吉先生ごに生る」ではじまる碑文で伝えています。今年は生誕175年にあたります。これを記念して7月16日に、ゆかりの地である大阪において福澤諭吉生誕175年記念式典及び記念講演会が行われました。



大阪市福島区福島1丁目



また、『福澤諭吉事典』を2010年12月に刊行予定です。2010年12月10日までにご予約いただくと12,000円(税込)にて、ご購入いただけます。(定価 14,700円(税込))

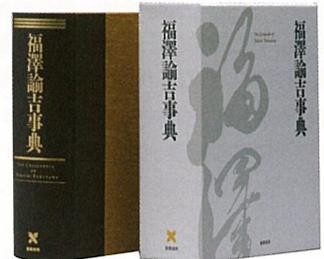
<主要目次> ※変更の可能性があります。

- I 福澤諭吉の生涯 II 福澤諭吉をめぐる人びと III 福澤諭吉の著作と言葉 (1 著作 2 言葉 3 漢詩)
IV 福澤諭吉年譜 V 図説資料 (1 肖像 2 遺品 3 墨跡 4 旅行地図)
VI 『時事新報』社説・漫言論題一覧 VII 福澤諭吉を知るための基礎資料

詳細、ご予約は慶應義塾大学出版会Webサイトをご覧ください。

<http://www.keio-up.co.jp/kup/150/>

<お問い合わせ先 慶應義塾大学出版会> TEL: 03-3451-3584



編集後記

今年で3回目を迎えた「維持会常任委員会懇話会」での、感謝の言葉、将来の夢・抱負を語った奨学生の皆さんの眼は、強く輝いていたという印象を受けました。今後も、維持会では、社会を担っていく将来ある塾生に支援をして参ります。どうぞ引き続きご支援くださいますよう、皆様にお願ひ申し上げます。また、維持会活動にご賛同いただける方は、どなたでもご加入いただけますので、この機会にご加入いただければ幸いです。 基金室 井上 由利亜

慶應義塾維持会 News Letter No.3

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45

E-mail: kikin-box@adst.keio.ac.jp

TEL 03-5427-1545 FAX 03-5427-1546 <http://www.kikin.keio.ac.jp>

発行日 2010年9月25日

発行 慶應義塾基金室 維持会担当

●ご意見・ご感想をお寄せください。